

< 実践事例 中央区立久松小学校 >

1. 取組・活動名

「豊かな国際感覚の醸成・世界の文化を知ろう」

中国の子供たちやスペインのキンボール選手などとの直接交流活動や、フラメンコ鑑賞会、コロンビア大使館との交流、JICA 国際理解教室など、海外での生活の様子や日本の小学校との違いなどを知る活動から子供たちの国際感覚を醸成するとともに、落語鑑賞会、相撲部屋への訪問稽古、はねつき大会、日本橋かるた大会への参加などの日本の伝統・文化に直接触れる活動を行った。

2. 取組・活動のねらい

- 世界各国の人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
- 国際理解に繋がる活動を通して、海外に対する興味・関心を高めるとともに、他者との違いを受け入れることの大切さを理解する。
- 自国の伝統芸能や文化について知り、その魅力を自ら発信しようとする態度を育てる。

3. 教育課程上の教科名・時数

「総合的な学習の時間・8時間」

4. 実施上の工夫

- ・年間を通して、外国の文化について知る機会を設けるとともに、毎年行われている地域に根差した様々な活動や日本文化にも改めて目を向けさせ、その両方を軸として豊かな国際感覚の醸成に努める。
- ・講演会や交流会を行う際に、そのめあてを明確にした活動を計画する。また、その意図を児童が理解しやすいように説明し、より充実した活動につなげる。
- ・単発の学習で終わらせないために、学習ノートを有効活用し、自分が学んだことを蓄積させる。

5. 本取組・活動の内容



「中国の子どもたちとの交流」

- ・北京の小学校の3年生、4名が本校に訪れて、本校3年生と交流活動を行った。
- ・同学年の児童がそれぞれの言葉で挨拶をしたり、様々なゲームを一緒に行うなどの交流を通して、児童は、文化の違いに驚きながらも、中国と日本それぞれの国のよさを実感することができた。また、母国語は異なっても心は通じ合えるということについて、交流を通して体感することができた。



「落語鑑賞教室」

- ・本校に在籍をしていたことがある、落語家の講師をお招きし、当時の久松小学校周辺の様子をうかがったり、落語を鑑賞したりした。
- ・途中、児童と一緒に謎かけを考えるなど、子供も参加をしながら進めることで、その難しさや楽しさを体験した。
- ・日本ならではの言葉の面白さや、その魅力に多くの児童が夢中になって話を聞くことができた。



「フラメンコ鑑賞教室」

- ・講師としてフラメンコのダンサーをお招きし、スペインの伝統芸能であるフラメンコを鑑賞した。
- ・その国の文化だけでなく、スペインの小学生はどのような生活を送っているのか、日本と比べながら学ぶことができた。また、フラメンコでの手拍子のリズムを教えてもらい、特有のメロディに乗せ、体全体で曲に合わせて動きながら楽しむことができた。

6. 成果

- ・北京の児童との交流会では、初めに少し緊張感のあった児童が、交流会が進むにつれ表情が豊かになり、進んでコミュニケーションをとろうとしていた。言葉が伝わらなくとも、身振り手振りを交えて相手に自分の考えや気持ちを伝えようとする姿が見られた。また、キンボール選手との交流など様々な交流を通して、他国の文化を尊重しようとする心が育った。
- ・落語の鑑賞会や、現役力士による講演会、相撲部屋への訪問稽古、はねつき大会や日本橋かるた大会への参加など、日本の伝統・文化に直接触れる機会を多く設けた。自らが進んで参加をすることで、そのよさを実感するとともに、長きにわたって受け継がれてきた文化を誇りに思う態度の育成が図れた。
- ・フラメンコ鑑賞会や、コロンビア大使館との交流、JICA 国際理解教室を通して、海外での生活の様子や、日本の小学校との違いなどを知ることができた。様々な外国の文化を学ぶことで、児童が国際的な視野をもつことができるようになっただけでなく、他者との違いに気付き、それを認め合うことよさを感じることができた。